

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	9 月	26 日	記入者	神野 一美	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	東辻	前田

文化財名	黒滝の樽丸製作用具					
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input checked="" type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()	
指定年月日	2016年(平成26)3月28日					
所在地	吉野郡黒滝村粟飯谷(黒滝村民俗資料館)					
所有者 管理者	黒滝村					
員数	103点					
時代区分	江戸中期に始まり、大正から昭和初期までが最盛期					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)		
案内板の状況	なし(資料館内に奈良県有形民俗文化財指定書はあり)					
公開	あり(ただし、資料館隣の黒滝村森物語村事務所に要連絡 開館時間:11時~16時 無料)					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 ()					
当面の課題	資料館としての「黒滝村旧役場庁舎」の案内板はあるが、県指定の建造物の文化財指定であり、有形民俗文化財の所在を示す案内板が必要。					
今後の課題	製作用具の面では、せつかくの民具資料がもっと大勢の見学者に見てもらえるような取り組みが必要かと思われ、また技術面では黒滝村は後継者なし。現在も樽丸を製作しているのは、吉野町、大淀町、下市町、川上村を合わせて5軒程度。吉野全体での後継者育成が望まれる。					
その他 (由緒など)	吉野の樽丸は、江戸中期の享保年間に和泉国堺の商人が、芸州(広島県西部)の職人を黒滝村鳥住に連れてきて村人に教えたのがその始まりとされている。その後、吉野全域に広がったもの。吉野の樽丸製作技術は、2008年(平成20)1月に国重要無形民俗文化財に指定されている。					
コメント	樽丸の製作工程:大割り(樽の長さに切った吉野杉を放射状に割る)→小割り(年輪に沿って割る)→削る(クレが完成)→約6ヶ月乾燥→樽丸にして出荷 樽丸とは、クレと呼ばれる酒樽の側板を運搬のために竹の輪の中に詰め込んだ束のこと。樽の形にするのは、日本酒などの製造側の樽職人が行う。この資料館の入っている建物は、黒滝村大字中戸の河分神社の対岸辺りで旧黒滝村役場として利用されていたものが、1995年(平成7)に現在の場所に移設された。資料館だけでなく、100年を超えるレトロな明治の近代建築も一見の価値があると思われます。					

奈良県指定文化財調査票(写真)

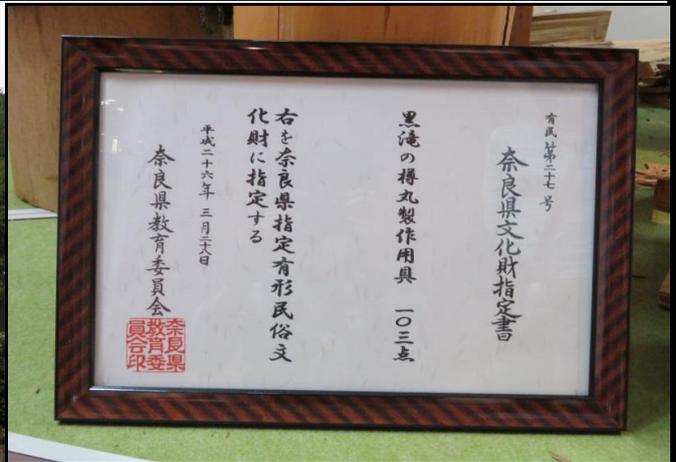
調査日	2020 年	9 月	26 日	記入者	神野 一美	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	東辻	前田

文化財名	黒滝の樽丸製作用具
------	-----------

資料館のある建物(黒滝村旧役場庁舎)



奈良県有形民俗文化財指定書



樽丸の製作風景、左の人の用具は「コヅチ」



削り包丁「セン」で厚みを均一に



クレ(左端の杉板)と製作用具の一部



製作用具の一部

